

## 『臨床発達心理実践研究』 投稿論文原稿作成要領

\* 文献の記載方法等の詳細については『『臨床発達心理実践研究』執筆の手引き (2009年6月版)』をご覧ください。

1. 研究論文の構成は、問題・方法・結果・考察からなるのが望ましい。
2. 研究論文は、文字の大きさを10.5ポイント以上とし、A4判の白紙に鮮明に印字する。原稿は、1枚あたりの字数を1,520字(40字×38行)とし、余白(上下2cm以上)と行間を十分にとる(1.3程度)。研究論文は、本文、図、表、引用文献を含めて6～7枚(約8,000～10,000字、400字詰原稿用紙で20～25枚)とする。ただし、意見論文は、この限りではない。なお、これとは別に5個以内のキーワード、300字以内の論文要旨をつける。
3. 本文中の記述は、「である」調に書き、簡潔・明瞭を旨とし、難読漢字・旧仮名遣いの使用は資料の引用文献以外の箇所では行わない。
4. 句読点は、日本文はコンマ(,)とマル(。), 欧文はコンマ(,)とピリオド(.)を使用する。
5. 外国人名、地名は原語で記載する。これら以外の専門用語について原語を用いる場合には、できるだけ和訳を併記すること。
6. 数字は算用数字を使用し、計測単位は原則として国際単位系を用いる。
7. 本文中での引用文献の引用は、著者名と刊行年次を括弧に入れて示す。著者が複数の場合は、邦文では「～ほか」、欧文では“et al.”とする。
8. 引用文献は、必要最低限のもののみを挙げ、論文末尾に一括して次のように示す。その他詳細については、『臨床発達心理実践研究』第4巻巻末に掲載の『『臨床発達心理実践研究』執筆の手引き (2009年6月版)』、また「発達心理学研究編集委員会(日本発達心理学会)」の「論文原稿作成のための手びき (2005年改訂版)」に準拠する。
  - 1) 各文献は、筆頭著者名のアルファベット順(同一著者の場合は発表順)に記載する。
  - 2) 著者氏名は、全員の氏名を省略せずに記す。
  - 3) 欧文・邦文とも雑誌名は省略しない。
  - 4) 各文献は、著者名、刊行年次、表題の順とする。単行本の場合には、表題の後に版数、出版社名(外国の場合は出版地も記す)を記し、雑誌論文の場合には、表題の後に雑誌名、巻数、ページを記す。
9. 図表は重複を避ける。図表原稿は、縦横それぞれ刷上りの約2倍にし、1枚の用紙に1つの図表を作成する。各図表には通し番号を付け、本文の最後一括して添付する。なお、本文中には、図表の挿入箇所を指定する。写真は図と同じ扱いとする。
10. 投稿論文の採否は、編集委員会の審査によって決定される。
11. 投稿論文は、ワープロまたはパソコンで作成し、原本とコピーあわせて3部を、下記宛先まで簡易書留で送付する。表題ページは、論文名(英訳も)、著者名、所属名、要約、キーワードを記す。本文はページ番号をつける。

〒104-0033 東京都中央区新川2-22-4 新共立ビル2F  
日本臨床発達心理士会『臨床発達心理実践研究』編集部宛
12. 本誌に掲載された論文の著作権は、日本臨床発達心理士会にあり、無断で複製または転載することを禁ずる。
13. 不明な点についての問い合わせ先は、以下の通りである。

『臨床発達心理実践研究』編集部  
FAX : 03-3553-2047 e-mail : jcdp@kyouritsu-online.co.jp

(2009年6月改訂)